

I-② いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム以外の教育活動）

（島根大学・教育学部）

教育活動名	教育体験活動 「臨床・カウンセリング体験領域」 生徒指導・進路指導・保護者支援の臨床技術
実施主体	教育学部附属教育支援センター（足立智昭 村上幸人）
受講者・参加者数	約175名（約25人ずつ×同一内容を年間7回）
<p><b>【活動計画】</b></p> <p>島根大学教育学部では、「1000時間体験学修」の履修が必修となっている。これは、基礎体験領域（510時間）、学校教育体験領域（340時間）、臨床・カウンセリング体験領域（150時間）の3つ領域から成る。</p> <p>この中の臨床・カウンセリング体験領域は、2～3年生を対象として、いじめや不登校、また学級崩壊などの教育的課題や特別支援教育などについての理解を深めるために、認知学習を中心とした3つのコア授業科目（90時間）と、これらの課題に対応する上で必要となるカウンセリング・マインドや具体的なスキルなどを育成する体験学習（60時間）から構成されている。</p> <p>体験学習の活動内容としては、①自己理解・他者理解をベースとしたカウンセリング・マインド養成演習 ②グループ・アプローチをベースとした子ども理解、学級集団形成のための基礎演習 ③特別支援教育相談に関する演習 ④教育的課題に対する外部講師による特別講義 などがあり、全プログラムの内訳は、カウンセリングを想定した実習（以後C系と表記）20時間、グループ・アプローチを想定した実習（以後G系と表記）20時間、特別支援教育相談実習20時間を計画している。</p> <p>次は、C系の活動計画である。</p> <p>第1回：オリエンテーション 自分発見のためのエゴグラム  第2回：自分とのコミュニケーション（心身・身心関連）  第3回：コミュニケーション・スキル1：自分の聴き方の持ち味  第4回：コミュニケーション・スキル2：プチどん話とリソース  第5回：コミュニケーション・スキル3：リフレイミング  第6回：こころの天気描画法  第7回：<u>子ども理解：実際の学校現場から、いじめの事例より</u>  第8回：怒りのマネジメント1：自身の怒り感情をふり返ろう  第9回：怒りのマネジメント2：ネガティブ感情を向けられた場合のシナリオ・ロールプレイ  第10回：全体ふりかえり  第11回：教師と児童・生徒の絆を深める教育相談アプローチの基礎と活用（特別講義）  第12回：児童・生徒同士の絆を深めるピア・サポートプログラムの基礎と活用（特別講義）  第13回：東日本大震災後の学校現場の実情とその支援について：SCの立場から（特別講義）  第14回：教員2年目の現状～大学4年間は貯金をするべし～（特別講義）  第15回：“かかわり”を通して磨く教師の力（特別講義）</p>	

## 【活動内容】

### 第7回：子ども理解：実際の学校現場から、いじめの事例より

C系の活動1単位時間において、「子ども理解とその対応」と題して、問題事態への対応について特にいじめの事例を取り扱う。ここでは、学生は担任として事例の場に遭遇したときのことをイメージして活動に臨む。

#### 1. ねらい（視点）

- ①学校現場で教員が向かい合っている問題を具体的に知る。
- ②実際の事例を通して、その問題行動が起こる要因について、子どもの背景にある様々な環境や人間関係など多面的に考えを巡らせる。
- ③自分がその場に遭遇した時のことをイメージし、その問題に対しての解決案を考える力をつける。
- ④解決案の前提として、共感的理解が重要であることを認識する。

#### 2. 事例

取り上げる事例は、小学校高学年児童1名が、学校行事におけるトラブルから学級集団において無視をされてしまうというものである。

#### 3. 体験学習構成

- ①導入時は、まずどのような対応をするのかを思いつくまま出してみる。被害児童・生徒への理解が不十分な段階では、加害者側の正当性を認めて該当者で話し合わせるもしくは双方に対して改善すべき所を注意する・叱るという対応を考えたり、被害児童の保護者の訴えをいわゆるモンスターペアレントとしてとらえてその対応に拒否的な感じを受けたり、もしくは何をすればよいのか分からない・自分一人では対応しきれないといったような戸惑いの反応が学生から示される。
- ②その後、被害児童の気持ちについて時間を取り、学生間での協議を行いながら考えることで、その辛さや苦しさへの共感に努める。いかに自分のこととして考えられるかがポイントとなる。
- ③そして、その子どもの気持ちをもとに、担任がどのような支援を行うべきかを再度考える。ここでは、被害児童に対して担任が心配をして即座に様子を見に行くこと、その際にはその児童の味方となって受容していくことの大切さや自尊心に配慮した働きかけが大切であることをつかむ。つまり、本時間では、単に解決策を模索するのではなく、まずはその子にすぐに寄り添うことの大切さを理解する。その姿勢がなければ、その後の段階的な対応や関わりは効果的ではないことに気付かせていく。

また、我が子の苦しみを痛切に感じている保護者への支援や連携、教師間における連携についても視野に入れ、皆で一緒にいじめの問題について取り組むことの大切さについても学ぶ。

この一事例より、教育実習や基礎体験活動で出会う様々な子どもたちに対して、一人ひとりを大切にすること、それは、そこにある行動に対して、その背景について立ち止まって考えてみる構えであれば、かかわり方に余裕や幅が出てくること、同時に、その子どもたちが安心感を得て、自分という存在を大切に、少しずつ前向きになって解決に向かっていくであろうとして、まず何よりも子ども理解を通じての信頼関係の構築をアドバイスしている。

I-② いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム以外の教育活動）

（岡山大学・大学院教育学研究科）

教育活動名	教員免許状更新講習 （教科指導，生徒指導その他教育の充実に係る事項）
実施主体	岡山大学
受講者・参加者数	30名
<p><b>【活動内容】</b></p> <p>「児童生徒のいじめ・うつを予防する心理教育」を開講</p> <p>日時：平成24年8月10日（金）</p> <p>場所：教育学部本館4階第一会議室</p> <p>講師：安藤美華代</p> <p>内容：自己洞察ならびに困難への対処解決およびソーシャル・スキルといった方法を用いて，感情面，認知面，行動面に働きかけることで，児童・生徒の社会的適応を育み，心理・行動上の問題を予防する心理教育“サクセスフル・セルフ”について，演習を通して学ぶ。</p>	

I-② いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム以外の教育活動）

（山口大学・教育学部）

教育活動名	現職教員と教職志望学生による協働型協働研修プログラム 「ちゃぶ台次世代コーホート」（3月期研修会）
実施主体	教育学部（ちゃぶ台方式教職研修部：コーホート事務局）
受講者・参加者数	45名（教職志望学生、現職教員、大学教員、教育委員会関係者）

【活動内容】

- ・現職教員と教職志望学生による研修プログラムの定例研修会の中で、いじめ、生命尊重等に視点をあてた研修を実施した。
- ・日時 平成24年3月24日（土）13:30～17:30
- ・場所 山口大学教育学部「ちゃぶ台ルーム」
- ・講師 NPO法人山口被害者支援センター 事務局長 山根和子  
他 山口県警察本部警務部総務課員、犯罪被害者支援室担当者等
- ・内容 山口県におけるいじめや被害児童生徒の現状  
山口県における犯罪等被害、被害者の現状  
殺人等刑事犯、悪質な交通事故、いじめ、医療過誤等  
犠牲者の声から命の重さ、尊さを考える  
未来の命を守ることの大切さ  
いじめや諸事案に対する学校、教育機関の対応  
学校教員に望むこと、教職をめざす学生たちに期待すること 等
- ・その他 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員、山口・九州・関西学院・西南女学院大学の学生、教育学部教職員、山口県教育委員会担当者の参加があった。

I-② いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム以外の教育活動）

（山口大学・教育学部）

教育活動名	教職志望学生と教育関係者によるジェントルハート交流会
実施主体	霜川正幸研究室・山口県警・山口被害者支援センター
受講者・参加者数	32名（教職志望学生、大学教員、教育・福祉関係者等）

【活動内容】

- ・教職志望学生のいじめや生命に対する理解を深める為、NPO法人役員（犯罪被害者）を招いた研修会、交流会を実施した。
- ・日時 平成24年11月30日（金）19:00～20:00
- ・場所 山口市湯田温泉「ホテルかめ福」研修会場
- ・講師 NPO法人ジェントルハートプロジェクト 理事 小森美登里（東京都在住）  
山口被害者支援センター 事務局長 山根和子  
山口県警察本部犯罪被害者支援室担当者等
- ・内容 滋賀県大津市の事件で見えてきたこと  
全国のいじめ事案と被害者の状況  
犠牲者の声からいじめや命の重さ、尊さを考える  
学生からの質疑と応答  
教職をめざす学生たちに期待すること 等
- ・その他 教育学部学生・教員と児童養護施設、母子生活支援施設、臨床心理士、社会福祉士、山口市健康福祉部担当者、企業経営者、山口県警察本部、山口市教育委員、山口市教育委員会事務局担当者、山口市立学校教員、社会復帰促進センター専門職員等の参加があった。